

# 国体への天皇の出席に反対します

(奈良)

10月12日に奈良県で開かれる「わかくさ国体」秋季大会開会式に天皇が出席しようとしています。そのため11日午後、京都経由で奈良入りしようとしています。しかし、私たちはこれに反対するものです。

## 〈私たちは過剰警備に反対します〉

国体へ天皇が出席する時、過剰とも言える警備が行われます。83年の愛知の高校総体では、総体反対のビラをまいだ高校生を、皇太子会場に到着するまで、警備本部に連行し、拘禁するといった不正当な弾圧を行ないました。また、皇太子の到着する駅のホームから一般客をすべてしめ出すなどの戒厳体制とも言える警備を行ないました。

このような戒厳体制や皇族の警備という名目で公然と行われているのです。

## 〈私たちは「精神障害者」に対する差別・人権侵害に反対します〉

国体への天皇参列。その裏では警察による「精神障害者」の調査・弾圧が行われています。83年の群馬国体では、地元警察官が町役場にて「国体夏季大会で皇太子ご夫妻がお通りになる。精神障害などを持つ人を教えてほしい」と調査にいっています。さらに県内の病院に入院中のある「患者」について警察署や同病院の担当医に電話で「国体開催中、外出許可を出さないでほしい」と申し入れていたことも分かっています。

これは、「精神障害者」に対する全く不当な人権侵害であると同時に、「精神障害者」＝「何をするのかわからない者」といった差別意識をあおりたてるものに他なりません。

## 〈私たちは天皇制イデオロギーへ強化に反対します〉

国体開会式に天皇が出席する。この開会式は皇族に忠



誠を誓うものとしてあります。83年の愛知の高校総体開会式では、入場行進の際、蓮寺団に、皇太子に向かって「干式」の敬礼を行わせています。国体も同様に、皇族に忠誠を誓った之後、「御許」をもらい、「御前競技」が始まり、天皇杯や皇后杯といった「賜杯」をめぐって争うものだと言えようでしょう。

国体はじめ、天皇へ出席するあらゆる行事で、天皇制イデオロギー、「国民意識」への浸透がそこまでも広がります。

京都七字主導自治会

# 反対

京都市左京区吉田本町奈大学生部員付

## 〈私たちが天皇の政治的な登場に反対します〉

天皇は国家元首とされ、天皇を頂点とした強力な国民統合がなされ、天皇の名のもとで朝鮮・中国への侵略が「正当化」されました。アシジア侵略の最高責任者である天皇は戦後との責任を問われることなく、天皇制は象徴天皇制の形で存続しています。

'75年の訪米から帰国の際、皇居での記者会見において、「(責任について)そういう言葉のアヤについては、私はそういう文学方面はあまり研究をしていないのでよくわかりません…」などと、容認しがたい発言を行なっています。

そして現在、「戦後の総決算」を掲げる中曾根政権のもと天皇制は再び国民統合の軸として政治的に浮上しようとしています。

9月に行はれた韓国大統領全斗煥—天皇会談、その際の天皇の「お言葉」は、マスコミでクローズアップされました。これは、天皇が「日本国民」の象徴として外国の「元首」と会うことを通じ、天皇の「国民意識」への浸透をはかるものであると同時に、かつての朝鮮侵略の歴史、天皇の一言で清算してしまうことを狙ったものに他なりません。

また、「87年には沖縄國体が予定されており、國体参加にかこつけて天皇が前進しようとしています。これもまた、第二次大戦での敗戦前に抑揚を切り替て、多くの沖縄民衆を死にいたらしめた歴史を清算する狙いをもってなされるることは間違いないでしょう。

(さらに'88年には、二八京都で行はれる予定です。)↗

そしてこのような「昭和」の歴史の「総決算」のしめくくり、「新たな時代」の開始として、天皇の死と皇太子の即位(=エリザベス)を政治的に利用し、「民族主義」「国家主義」をあおりたて、強力な国民統合をなしきろうとしているのです。

私たちは、何よりも天皇の政治登場に反対するとともに、団体との他様な行事を通じて天皇制の「国民意識」への浸透を阻止していくなければならないと考えます。

全ての皆さんへ、私達の訴えに耳を傾け、「天皇制」の色々な問題点について共に考えていかれるよう呼びかけます。

